エルドラード
フットボールクラブ

クラブ方針資料

サッカーを通じ
自ら考え、辛抱強く、
そして挑戦し続け、
それが社会で通用する人となる。

説明内容

01 チーム理念

私たちが大切にする価値観と、目指す選手像を共有します。

02 育成方針・理想の育成

チーム理念に近づくにはどのような育成を目指しているかを説明します。

03 試合・出場機会・評価の考え方

試合出場時間や選手への評価の考え方を説明します。

04 中学校年代の主な公式戦

中学校年代の主要大会の説明をします。

05 保護者との連携・連絡の基本

選手・保護者・指導者が協力して不安や疑問を確認し、安心して活動を始められる場にします。

1.エルドラードFCが大切にすること（チーム理念）

理念：サッカーを通じて自ら考え、辛抱強く、
そして挑戦し続け社会で通用する人となる。

挑戦

失敗を恐れず挑戦することを推奨し、指導者もそれを後押ししていくこと。

失敗があればそこから学び、次の行動につなげていくマインドを持つ。

忍耐

サッカーに限らず、日々過ごしていれば楽しいことや良いことばかりではない。

苦しいときこそ耐え忍び継続し、物事をやり切る力を身に着ける。

自立

自分で準備して考え、そして判断し決断し行動に結びつける習慣を身につける。

安易に大人が手を貸さず、自分のことは自分でやるよう促していく。

協力（チーム）

個人が持つ力を、チームのために発揮すること。

チームの中の個人が存在し、個人がチーム形成していることを理解する。

勝利を目指すことと、選手一人ひとりの長期的な成長を両立

1-2. エルドラードFCが大切にすること（チーム理念）

勝利を目指すこと

昨今叫ばれる勝利至上主義への考え方

当然、我々エルドラードも極端な勝利至上主義は我々も反対ですが、勝利を目指すことが悪であるとは考えていません。

選手の成長のために勝利を目指すこと

勝利を本気で目指し取り組んでいくことで、それが子供たちの成長に繋がり、延いてはそれが社会で通用する人間に求められる要素になると考えております。

勝利を目指していく方法の重要性

勝利を目指す上で、選手の力を最大限生かしながら勝つ方法を我々指導者も真剣に模索し続けます。

何事にも本気で、辛抱強く。選手も指導者も結果を追求できる人間に。

社会で通用する人間とは？

- **メンタリティ（我慢強さ）**
- **挑戦し続ける力**
- **自立している人間性**
- **コミュニケーション能力**
- **協調性**
- **実力（結果を出せる）**

では、この求められる能力をいつ身につけるか？

→**小学校高学年や中学生年代から徐々に身につけていかないと、社会人になって出来ることではないと考えております。**

こういった力を身に付けられるよう指導者も促していきます。

サッカーから逆算した日常の行動への落とし込み

練習前

挨拶・時間厳守

用具準備

体調の自己申告

練習・試合中

主体的な声かけ

仲間へのリスペクト

全力での挑戦

練習後

片付け・感謝

自分の振り返り

次回の目標設定

サッカー以外の学校生活・家庭生活でも実践できる習慣を目指します。

2-2. 育成方針・理想の育成

サッカーそのものに対する育成理念

個を育てる

各選手の持つ特徴をよく観察して捉え、その特徴を磨いていく指導をしていく

指導者は、判断を奪い、プレーを狭めるような指導はしない

サッカーの原理原則

サッカーにおけるセオリーを理解させることで、どこにいっても通用する選手になるよう育てる

目の前にいる選手に合わせたチーム作り

指導者が理想とするサッカーを持ちつつも、目の前の選手たちが最も力を発揮できるようなチーム作りをしていく

1番大切なのはサッカークラブとしてサッカーの力を伸ばしていくこと。

選手・保護者・指導者の役割

選手

・自分の成長がメイン。

・自分のことは基本的に自分で行い、自主自立を目指す。

・準備・挑戦・振り返りを自分で行う。

保護者

・努力と成長を見守る。

・生活面を支え、選手の**自立**を尊重する。

・クラブの活動中は手を出さず見守る。

指導者

・安全で挑戦できる環境を整える。

・目標・評価・指導者からのジャッジを説明する。

・指導者も成長するため日々学ぶ

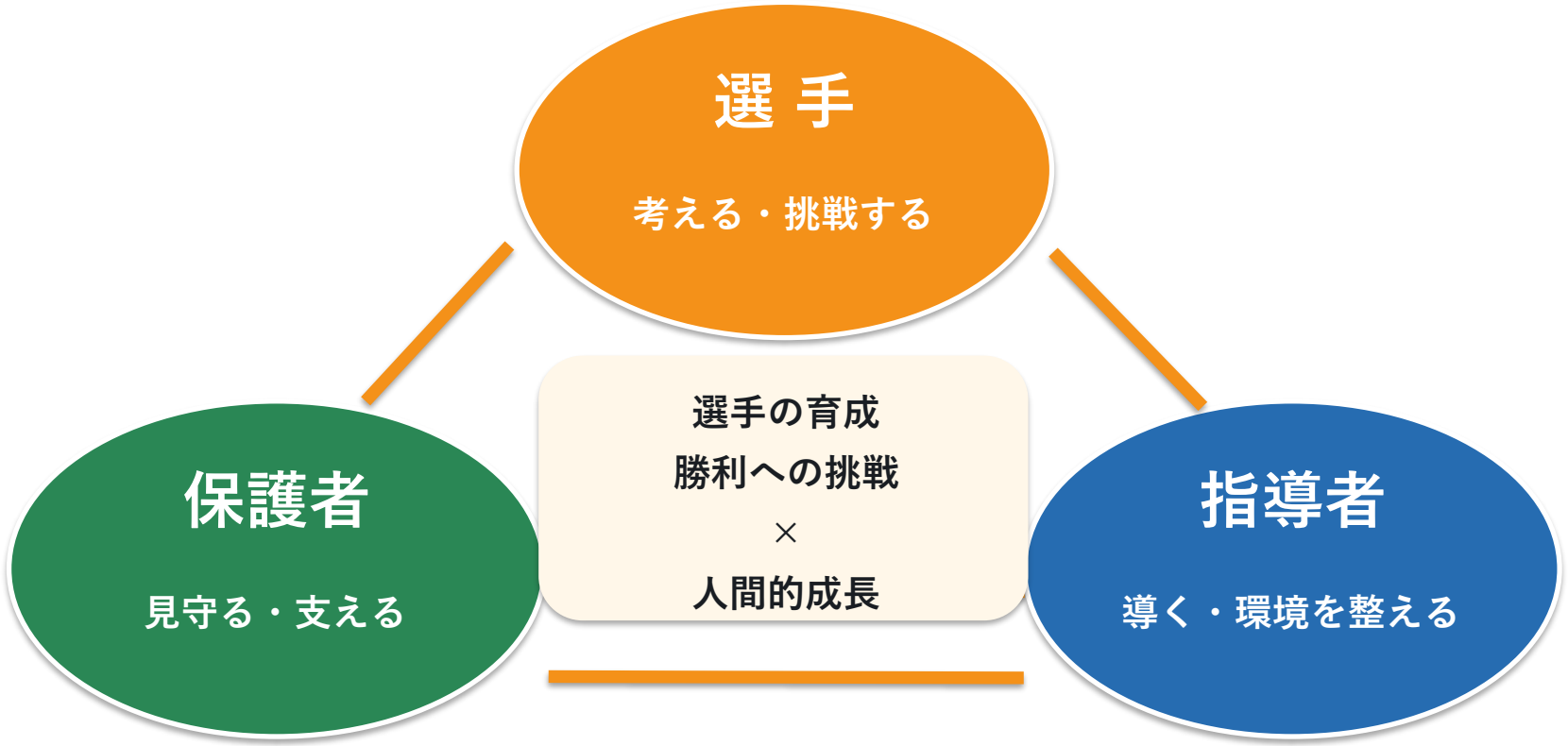
クラブとは、選手だけでも、保護者だけでも、指導者だけでも成り立たず、クラブは様々な人がいて成り立つ

【選手・保護者・指導者】三者が同じ方向を向くことで、習慣化し選手の成長を支えていく。

2-4. 育成方針・理想の育成

選手・保護者・指導者が協力して育成を支える

三者が同じ方向を向くことで、サッカーと人間性の成長につながる



共に支え、共に育てる。選手の成長が、チームの力になる。

3.試合・出場機会・評価の考え方

試合出場時間を均等にすること
＝成長を促すとはならない

・試合出場時間が同じではなく不公平ではないか？などと疑問の声が上がることがあります。

→我々指導者は全選手に等しくチャンスは与えたいと思っております。ただ、勝利を目指す競技スポーツにおいて、試合時間を均等にすることは本当に公平性があるのでしょうか？

そのゲームに至るまでの過程で、選手1人1人の努力は同じなのか？チームに貢献している度合い、練習を休む頻度は同じなのか？

→単純に出場時間を均等にすると、ゲームに出場するための努力が不要になり、逆に不平等になっていく

→公正中立な評価をするため、その時点での実力や意欲、それまでの練習での過程を加味した上で評価をし、出場時間を決めるていくことが多くなっていく

試合に多く出るためにはどうすれば？

○チーム理念は【挑戦】、【忍耐】、【自立】、【協力】！

・自分になにが足りないのか？→**分析（コーチに聞く）**

・努力をすること→**楽しいことや良いことばかりではない。耐えて耐えて努力を怠らない。**

・努力＝**結果が出る訳ではない**

努力した結果を分析して良い方向へ繋がらないのであれば違う角度からチャレンジ、トライ＆エラーを継続していく。

・他人を評価したがるようになってしまう

うまくいかない時は、どうしても他人の悪いとこを見つけたりして他人の評価をしたがる。

自分にベクトルを向けて自身の成長を心がける！

上記の要素は社会で通用する人間に必要な要素と密接にリンクしている！

我々大人も我慢して自立を促し、選手の人間性が向上した時にサッカー選手としても成長します！

4. 小学校年代の主な流れ

キッズから小学4年(U-10)まで

・サッカー導入期

幼児から小学４年まではサッカーの導入期

・原則全員出場

小学４年までは、どんな試合も基本的にはその日１日で出場のない選手がないようにする

・高学年に向けて

高学年になったときによりサッカーと向き合えるよう、サッカーを好きになり意欲を持つことを促していく

小学5年(U-11)

・導入期から協議スポーツへの移行

秋から始まる県U-11リーグは公式戦となり、競技性が高まっていく

・公式戦の扱い

公式戦は全員出場ではなく、実力等を加味し出場時間を決定する方向へシフトしていく

・引き上げるべき選手へのアプローチ

頑張っていても試合に出場できない選手もいます。そういった選手たちにはチャンスをあげられるよう、練習試合等の機会を作る努力を指導者がしていく

小学6年(U-12)

・年間予定

▶４月～６月の間にU-12リーグ

※ 昇降格あり

▶５月 関東大会予選

※３位以内で関東大会出場

▶11月 全国大会予選

※１位が全国大会出場、８強で関東大会出場

・競技スポーツの継続

小学５年からの、各試合に対するスタンスは継続していく

練習試合やフェスティバル参加も継続し、選手たちには多くの試合機会を得られるようにしていく

中学生(ジュニアユース)にむけて

・ジュニアユースへの参加

選手によっては、ジュニアユースの練習や試合へ参加させ、より高いレベルの経験をしてもらう

・ジュニアユーススタッフとの連携

ジュニアユーススタッフと常に連携し、試合帯同や情報交換を密にし、選手をジュニアユースへ迎え入れる準備をする

4. 中学校年代の主な公式戦

各種リーグ戦｜U15リーグ・U13リーグ

・U15リーグ

2月～8月で年間を通してリーグ戦を行う。昇降格があり、上位リーグを目指して本気で勝ちにいく。

・U13リーグ

中学1年生に公式戦の機会を与え、正規の人数・ピッチサイズでサッカーを本質的に学ぶ

クラブユース選手権｜5月～

・5月から行われる1年間に2回ある上位大会（関東・全国）へ繋がる2大大会の一つ

クラブチームのみで行われる。

※ 県予選で上位進出の場合、関東大会本戦の出場を逃した北関東の各県代表で行われるクラブユース関東 division 2 の出場権が得られる

新人戦｜9月～11月

・9月から11月にかけて中学2年生が主体となる最初の大会。

・翌年5月に行われるクラブユース選手権山梨県予選のシードを決める。

高円宮杯｜9月～10月

・U15リーグの結果が考慮され、8月に抽選会を行い9月から行われる**中学生年代最大規模の大会**。

・1年間に2回ある上位大会（関東・全国）へ繋がる2大大会の一つ

・中体連(部活チーム)とクラブチームが唯一戦えるトーナメント大会

5. 保護者との連携・連絡の基本

連絡・欠席・体調

・指定の連絡手段・期限に沿って連絡する
・欠席・遅刻・ケガ・体調変化は早めに共有する

相談の進め方

・まず事実と気になっている点を整理する
・必要に応じて選手本人・指導者・保護者で話し合う

選手の自立を支える

・すぐに大人が答えを出さず、本人が考える機会をつくる
・悩みや困りごとは一人で抱え込ませない。

互いへのリスペクト

・選手・保護者・指導者それぞれの立場を尊重する
・個人情報や他の選手に関する話題は慎重に扱う

最後に：一緒に選手の成長を支えましょう！

挑戦できる環境をつくり、成長を喜び合えるチームへ。

選手

自分で考え、挑戦し、仲間と成長する。

保護者

見守り、支え、選手の自立を応援する。

指導者

学び続け、安全と成長を支える。

ご不明なことがありましたら
ご質問・ご意見をお聞かせください。